

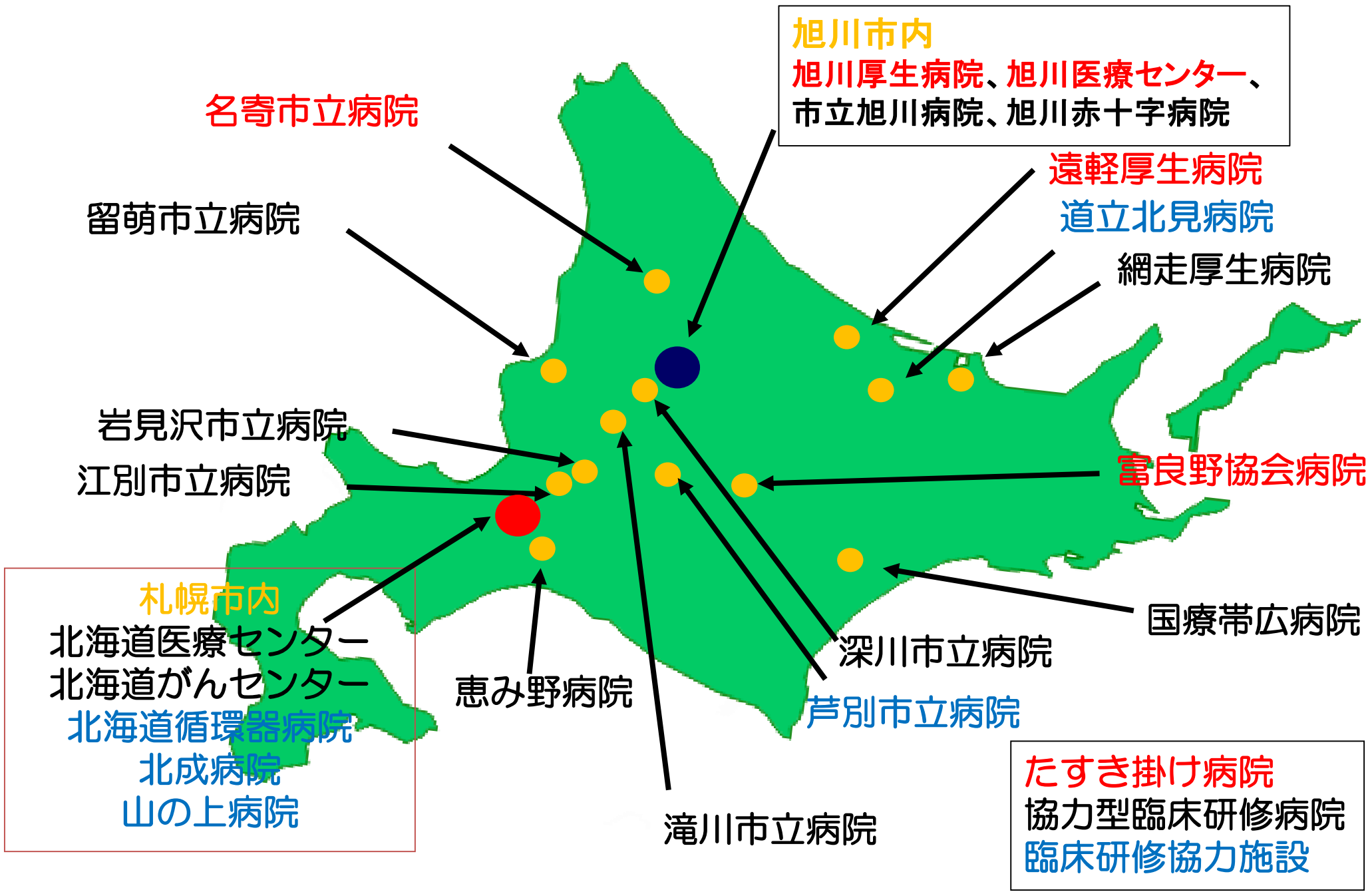
どうする臨床研修先

～第一内科研修のご紹介～

1内研修の特徴

- ① 専門診療～すそ野の広い専門医まで関連病院郡で希望に沿った研修
- ② 臨床研究を通してリサーチマインドを持った医師の養成
- ③ 多くの関連施設を有し指導体制が充実

1内関連研修受け入れ施設

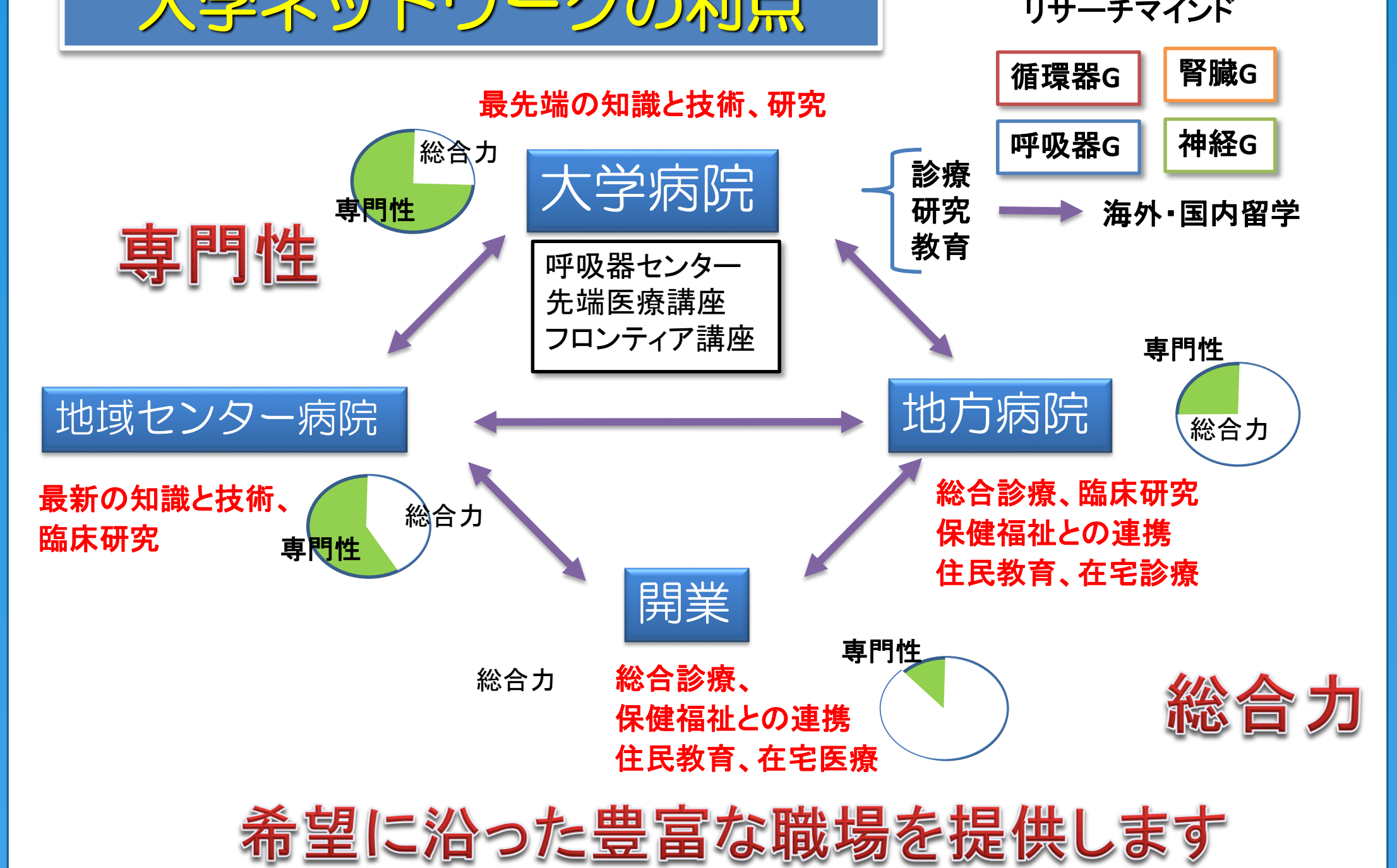


リサーチマインドを持った専門診療から裾野の広い専門医養成のために道内に展開する関連病院群との連携で多様な研修を実現します。

専門診療は、大学、センター病院で学ぶ事ができます。専門を軸とした総合診療は、江別市立病院、地方に展開する病院郡で学ぶ事ができます。

新専門医制度に対応した研修プログラムも準備を整えています。

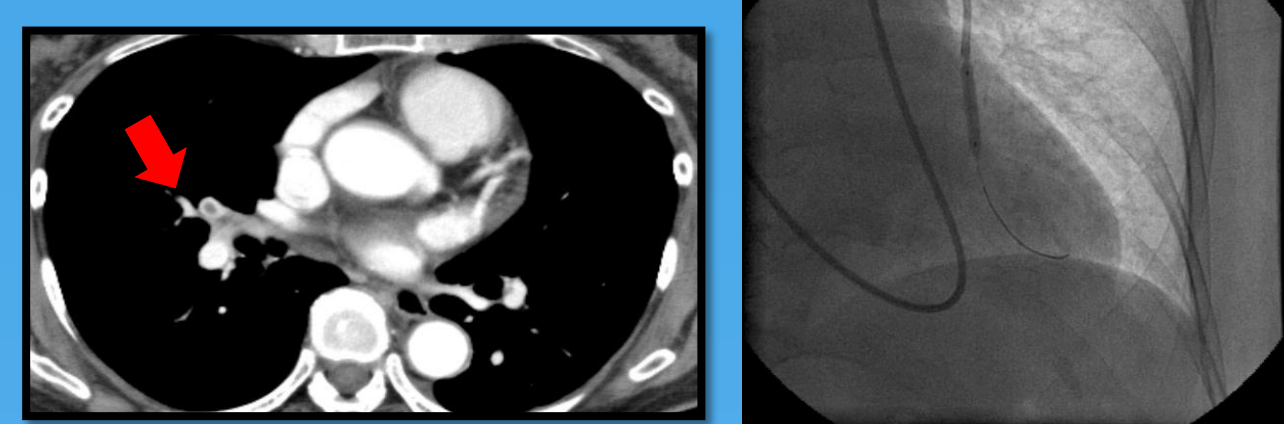
大学ネットワークの利点



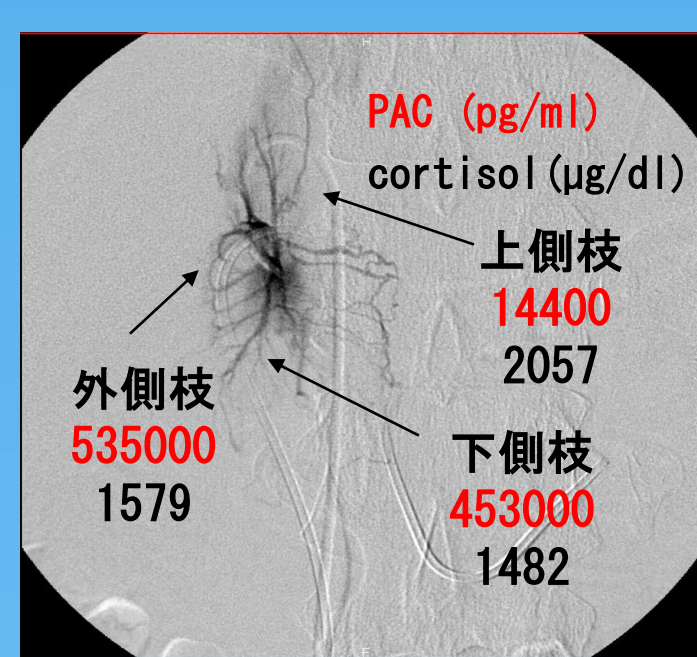
4つの内科分野を活かした研修

初期研修では、1内関連4分野との連携で研修が可能です。

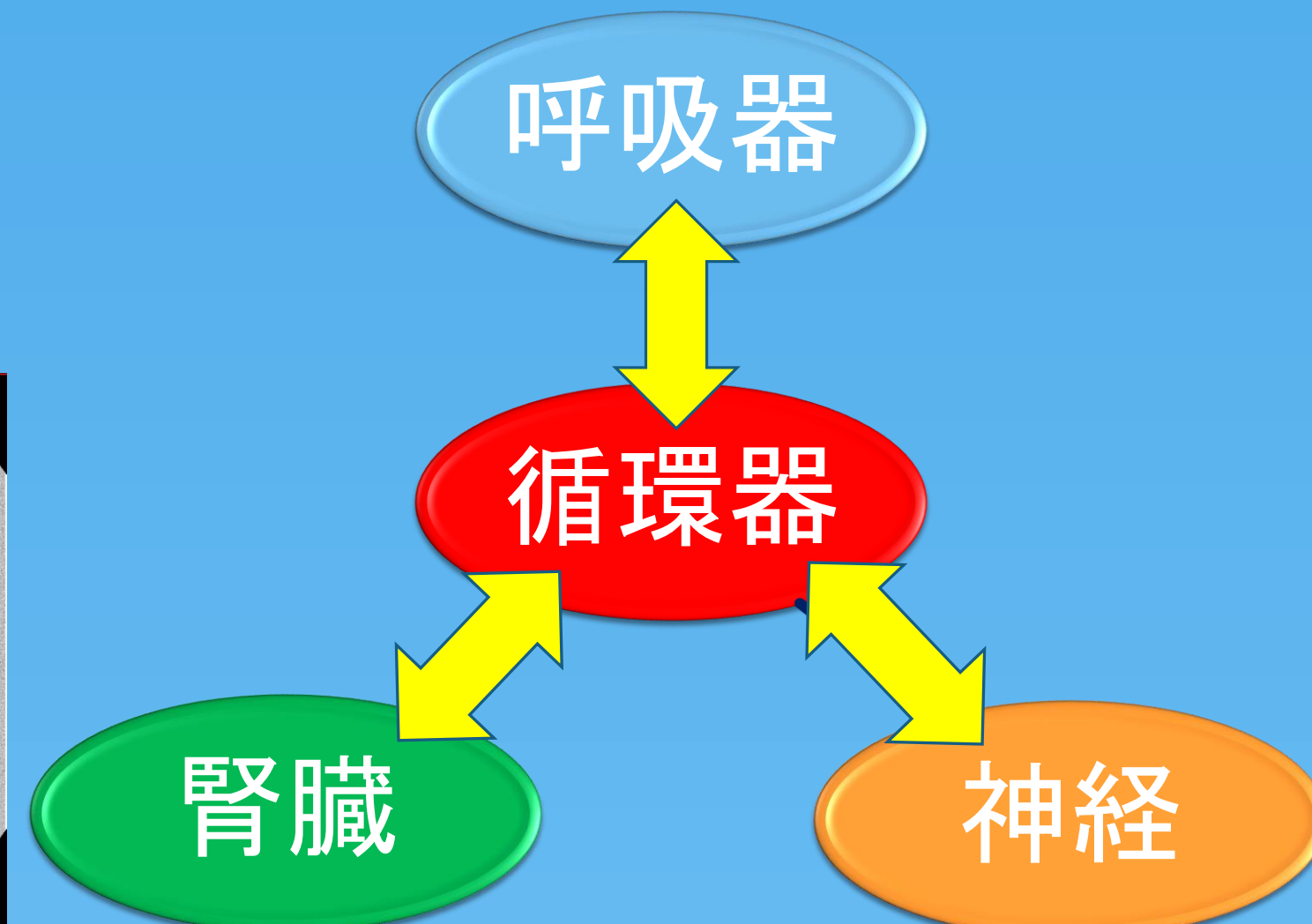
後期研修でも例えば、循環器を例にとると他の分野との連携で診療にあたり知識、技術を身につけることが可能です。



肺動脈バルーン拡張術など



選択的副腎静脈サンプリングなど



発作性心房細動と脳塞栓症など

新人若手のインセンティブ

若手にどんどん手技を指導し技術取得の機会を設けています。



日本内科学会サテライトシンポジウム 研修医・医学生のための内科学サミット

全国学会、地方会での発表の機会、国際学会への参加の機会を設けています。



優秀演題賞

初期研修医2人、医学生たちが2年連続受賞！

大学と市中病院をローターとした事例

3つの病院での卒後臨床研修

～旭川医科大学病院・旭川医療センター・東京医療センターでの経験～

旭川医科大学 内科学講座 循環呼吸神経病態分野
脳神経内科 鹿野耕平

研修プログラム

赤枠：超急性期
緑枠：内科系

1年目(旭川医大病院)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
救命センター		麻酔科	皮膚科		神経内科		循環器内科		糖尿病内科		

2年目(旭川医療センター)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
呼吸器内科		神経内科	放射線科	消化器内科	地域医療		外科		東京医療センター		

救命センター(3次救のみ)

なぜこの研修内容にしたか？

- ① 内科を重点的にやりたかった(神経内科を中心に)
- ② 超急性期医療を濃厚に研修したかった。
- ③ 手技の経験を積みたかった。
- ④ 大学病院、市中病院を両方研修したかった。
- ⑤ 旭川から出たくなかった。
- ⑥ 限界を感じるまで研修したかった。

手技とは？

- 気管内挿管
- 中心静脈カテーテル挿入
- 動脈ライン留置
- 縫合
- 腰椎穿刺
- 骨髄穿刺
- 気管切開術
- 胸腔ドレーン挿入
- GF・CF・BF
- など

大学病院と市中病院の違い①

- 大学病院のメリット
診療料が全てそろっている(コンサルトしやすい)
医療機器・資材が豊富で検査が充実している
- 市中病院のメリット
経験できる症例が多い(主治医で10人近く持つ事も)
手技の数が多

大学病院と市中病院の違い②

- 大学病院のデメリット
一つの科の病床数が少なく担当患者が少ない
電子カルテが使いにくい
- 市中病院のデメリット
病院にない診療科で困る
救急外来に資材がそろっていない

大学病院での研修

- 6ヶ月間の内科研修
神経内科・循環器内科・糖尿病内科を研修
神経内科(3ヶ月)では約10症例を経験。腰椎穿刺は30回以上
循環器内科(2ヶ月)では10症例を経験。心臓カテーテル検査の穿刺から造影まで経験できた。
糖尿病内科(1ヶ月)ではインスリン治療法、糖尿病の管理、合併症の検査などを経験

第1内科では…

- みんなの理想の医師像の実現に向け、
- 大学と関連病院群が協力して技術の取得をサポートします。
* 専門性の高い医師
* 総合力を身に付けた医師(新専門医制度に対応)
* リサーチマインドを持った医師

全てが可能！
みなさんと働けるのを楽しみに待っています！